

抜粋版



# バスケットボールプラザ

*Basketball Plaza*

*No:12*

---

2000年5月

日本バスケットボール振興会

## 目 次

○ 理事会および役員会・パーティ報告（概要）	1
○ 韓国プロバスケットボール（KBL）情報	小笠原義昭 11
○ 特集 「観客動員問題」について（調査報告）	編集・広報懇談会 14
○ 日本リーグ 沖縄	和仁屋松輝 21
○ セミファイナル観戦記 沖縄	奥村 竜大 22
○ JBL観戦記 東京	都崎 修男 23
○ WJBL観戦記 東京	黒川 敏雄 24
○ 特集 「中学生問題」について（調査報告）	普及懇談会 26
○ 顧問 浜 美郎氏 「スポーツ振興功労で受章」	33
○ 「長野県下の小・中学生バスケットボールの現状」	浜 美郎 33
○ 会員だより	37
太田 宣光 石川 俊紀 小久保光夫	
栗原 修 白谷 慶子	
○ 常任理事会報告（概要）	42
○ その他 各団体年間スケジュール	44
事務局だより	46

### …… 会報名が変わりました ……

これまで年2回発行されてきました「振興会ニュース」は、当会運営面の諸記録（ご報告）や会員消息等を中心に、平成5年7月の創刊以来前回の第11号まで、皆様のご愛顧を頂戴しながらそれなりの使命を果たしてまいりました。このほど当会と致しましては、従来の編集姿勢から一歩踏み出し、—— 国内バスケットボール界各方面の色々な声、話題、期待或いは疑問点などもテーマとして逐次採りあげ、懇談会（普及懇談会、編集・広報懇談会）を中心に調査検討を重ね、それらの成果を会報に掲げて皆様のご参考に供するとともに、要すれば外部関係先にもアピールしていくこと—— を、担当業務の一環として推進することになりました。常に公正中立、潤滑油的な立場に立ち、ひたすら“バスケット界のために良かれ”と願うOB、OGとしての素朴な心情を支えとし、気負うことなく歩みを進めてまいりたく存じておりますので、何卒よろしくお力添え下さい。

このような次第で、従来の「振興会ニュース」という会報名は必ずしも新編集内容に相応しい呼称とはいえなくなりましたので、関係者協議の結果、本12号より会報名を「バスケットボール プラザ（BASKETBALL PLAZA）」と改めることに致しました。なおこの機会に、紙面も時流に沿ってB5版からA4版に切り替えますのでご承知願います。

ご存じのように、「プラザ（PLAZA）」とは、“広場”を意味しますので、全国バスケット界の各方面からのお集りの振興会の仲間たちにとって、新会報が、お互いの友誼、交流、啓発のための良き“ひろば”として活用されていくことを切に願っての呼称（愛称）です。今後ともよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 韓国のプロバスケット（KBL）情報

小笠原 義昭

韓国では1997年からプロバスケットによるチャンピオンシップの試合が行われてきた。今回韓国を訪問してKBLの試合を見ることができたので、思いつくままに観戦記と感想などを書いてみることにした。

- 試合はホーム・アンド・アウェイが原則だが、2月4日～6日にかけては韓国の旧正月なので、10チーム全部がニュートラルなソウルのオリンピック会場の体育館で6試合を行った（1日2試合 15時/17時）。観客は1日5千人～6千人の入場者があり、また多くのバスケット関係者が観戦にきていて（会場の収容人数は1万5千人）羨ましいかぎり。

試合方法はNBA方式の10分コーター制で、24秒採用、審判は3人制。

ゲーム内容はスピードがあり、韓国特有の早いパス回しとジャンプパスがうまく、ジャンプシュートからシュートができず外にパスを出しシュートを打つケースが多い。外からのシュートが非常に多く、特に3ポイントは1試合1チーム平均15～25本投げ、確率は15～38%なので3ポイントで平均15～28得点することになる。

ゲーム運びのテンポが良く観客は非常に喜んで見ている。点差がついても面白いゲームが多い。ナイスプレイに対してはチームに関係なく鳴り物入りで盛大な声援を送り、また悪いプレイに対しては厳しいブーイングで応える。観客がバスケットボールを良く理解して楽しんで見ているのが印象的で、大変参考になる良いプレイを見て楽しかった。

- KBLの組織の人と話をすることができ、日本のこれからのバスケット界に参考になる貴重な意見を聞いてきたので述べておきたい。

- (1) プロチームの対戦なので観客を大切にしたゲームをする。観客の喜ぶ企画をして、広報宣伝に力を入れている。（特にスポンサー選び、ゲーム内容のチェック）
- (2) 韓国の選手の育成を考え（KBLの基本的な考え方）、外人はオンザコート2人であるが身長制限をしている。

・ 1人は205.74cm（6feet 9inch）以下でなければならない。

・ 1人は193.04cm（6feet 4inch）以下でなければならない。

このことによって韓国の大型選手はインサイドでプレイすることが多く、外人を頼らず自分たちの持てる力を十分に発揮している。

- (3) ディスクジョッキー、タレントによる選手紹介、観客へのアピール、BGM、チアガールの充実等、NBA並の実力。

TV中継は毎日行われ、試合終了後のインタビューにもひと工夫されていた。選手、コーチの後ろに立て看板を用意して行っていた。（スポンサー、KBL）

○審判について（背番号を付けている）

- ・FIBAのルールではなくNBA的で、特にトラベリングはリズムを大切にしている。
- ・審判委員長 李 載徳 審判部長 TOMSON
- ・KBL専属審判員 8名 その他 8名（KBL公認審判員）職業あり。
- ・各ゲーム審判審査員が2人必ずコートサイドで審判員の採点、チェックをしている。

○KBL設立までの歴史

1993年5月に韓国バスケットボール協会の中に韓国プロバスケットボール委員会が設立された。

1995年10月にKBL準備委員会を設立。

1997年1月に組織委員会が設立されKBLが発足。

第1回大会 1997年2月1日～5月1日に開催。

第2回大会 1997年11月8日～1998年4月11日に開催。

第3回大会 1998年11月8日～1999年4月16日に開催。

第4回大会 1999年11月7日より現在開催中。

2000年3月4日でレギュラーシーズン終幕。  
各チーム45試合を終える。（第1節～第5節）

上位6チームによるプレイオフゲーム 2月下旬～3月上旬 5戦

セミファイナル（準決勝） 3月中旬～3月下旬 5戦

ファイナル（決勝戦） 4月上旬～4月中旬 7戦

KBLに関する情報はインターネットで検索可能。

アドレスは <http://www.kbl.or.kr/>（ハングル語、一部英語で解説）

日本航空



世界へご一緒します。

今を心に刻む旅 2000-2001

**JAL**

JALフリーダイヤル

国際線予約・案内

0120-25-5931

国内線予約・案内

0120-25-5971

電話番号をよくお確かめのうえ、おかけください。

○チームの紹介

レギュラーシーズンの順位 (第4回1999年11月～2000年3月)

			勝 敗
1位	大田市	現代電子	33勝12敗
2位	清州市	S K (携帯電話)	32勝13敗
3位	水原市	三星電子	23勝22敗
4位	原州市	NARE 三宝 (携帯電話)	22勝23敗
5位	SEOUL市安養	SBSソウル民間放送局	21勝24敗
6位	釜山市	起亜自動車	21勝24敗
7位	昌原市	LG金星電子その他	20勝25敗
8位	大邱市	東洋製菓	20勝25敗
9位	光州市	NASAN物産 (百貨店他)	18勝27敗
10位	仁川市	新世紀 大宇自動車	15勝30敗

○チームについて

1 チームの登録人数は14名、ゲームのメンバーは12名。

1 チーム全体の年俸額の上限を決めている。

選手獲得にはドラフト制を採用。

○KBL専属審判員について

10ヶ月はKBLに拘束されている。

レギュラーシーズン、プレーオフの審判。ルール判定の研究会、体力のトレーニング等。

○入場料 土、日 一般 9000won (900円)

学生 6000won (600円)

中学 2600won (260円)

小学 1300won (130円)

(振興会 副理事長)

What's New  
by  
**Panasonic**

"We are more than a sponsor,  
We are part of the team!"

国境を越えて、世界をひとつにつなぐオリンピック。

パナソニックは、1988年のソウル大会以来、  
最新のテクノロジーを通じて、オリンピックに協賛。

そして2000年のシドニー大会も、

パナソニックの放送システムが公式機器として活躍します。

オリンピックの感動をお届けするために…

私たちはもう走り始めています。



公式放送機器に採用決定「DVCPRO」

パナソニックは、シドニーオリンピックに  
デジタル技術で参加します。

あなたとともに 豊かな未来へ 松下電器



Official Partner  
of the 2000  
Olympic Games

# バスケットボール日本リーグ セミファイナル沖縄大会を終えて

和仁屋 松輝

第33回バスケットボール日本リーグ男子セミファイナル沖縄大会が、3月11日(土)、12日(日)の2日間、沖縄県那覇市県立武道館アリーナ棟で開催されました。沖縄では、2月・3月の2ヶ月間で、日照時間が30時間余りという天候不良の続くなか、また、県下全中学校の卒業式(12日)や、高校入試(9日、10日)という、観客動員の心配されるなか、開催された大会でありましたが、出場チーム、松下電器(比嘉靖、仲村直人)と、いすゞ自動車(佐久本 智、井上公男)に、県出身選手4名が参加した関係で、試合自体は2日間とも盛りあがった試合となりました。

1日目は、終日小雨の降り続くなか、前座試合に男子高校No.1の北中城高校対カテナハイスクール(在沖米国高校)の試合を行った後、1試合目のアイシン精機対松下電器が開始され、県内出身選手がいる松下電器の応援団が圧倒的に多い状況下、アイシン精機の頑張りで大変白熱した試合が展開されました。特に、終盤における1点を争う一進一退のゲーム展開には観客も興奮し、バスケットボールのおもしろさを十分に満喫させられたゲームとなり、アイシン精機59(前半33-29・後半26-29)58松下電器、と1点差でアイシン精機が勝利を得ました。2試合目も、県出身者のいるいすゞ自動車と大和証券の対戦で、試合は終始5連覇を狙ういすゞ自動車が王者の貫禄を示す流れで展開され、いすゞ自動車88(前半45-26・後半43-30)56大和証券という結果でいすゞ自動車が勝利しました。ただ、後半途中に、大和証券のエリック・マッカーサー(No.55)が、丁度調子が乗ってきた時にいすゞ自動車のガード佐古賢一選手とのトラブルで退場となり、ゲームの盛りあがりや欠いてしまったことは残念でした。

2日目は、前座試合に一般の沖縄選抜対全カテナ(米軍)の対戦を組み、その後リーグ戦の2試合を行いました。2試合とも前日同様の試合展開となり、1試合目はアイシン精機68(前半40-31・後半28-36)67松下電器、でアイシン精機が2日続けての1点差勝ち、2試合目はいすゞ自動車80(前半47-30・後半33-39)69大和証券、の得点差で、いすゞ自動車が持ち味の速攻に冴えを見せて終わりました。

大会2日間を観戦して感じたことは、以前に比べて、外国人選手2名をコートの中に入れたことで、たいへんスピードのある激しい試合展開となり、NBAに近い試合が見られた点は良かったと思いますが、点差が開いてコート上が日本人選手だけの試合となったとき、急にわさびの入らない寿司を食べている感じを受けたのは自分だけだったのかなと思いました。また、小雨の続くなか、館内は蒸し暑く、選手の汗がコート上に落ちて選手が続々と転んだり、ボールが汗で濡れ、タオルで拭くたびにゲームが何回も何回も中断したことは、やむを得ないこととはいえ、試合の流れに興味を欠くこととなり残念でした。

ともあれ、2日間とも天候不良、県内の他の色々な行事との重なりもあって、観客動員が大変心配されましたが、JBL役員のご協力のお陰で、盛りあがった大会となって無事終了できたことを関係各位に感謝申し上げたいと思います。(沖縄県バスケットボール協会副会長)

# バスケットボール日本リーグ セミファイナル観戦記

奥村 竜大

第33回バスケットボール日本リーグセミファイナルが3月11、12日の両日、那覇市県立武道館アリーナで開催された。沖縄大会に参加した松下電器、いすゞ自動車の両チームには、県出身者の比嘉、仲村、佐久本、井上の4人がおり、また、前座試合で県高校トップの北中城高校対嘉手納ハイスクールの試合が組まれたこともあって、たくさんの人たちが会場に足を運び、盛りあがりのある試合が挙行されたが、同時にまた県民のバスケットボールへの関心の高さもうかがえた。

試合前のセレモニーでの選手紹介、いすゞ自動車トレーニングコーチによる派手なパフォーマンス、観客へのTシャツやタオルのプレゼント、ハーフタイムのチアガールによる応援など、試合以外の面も観客へのサービスの催しとして、とても良いものだったと思う。

試合内容に関しては、各チームのガード陣がしっかりしており、ボールハンドリング、パス回し、どれをとっても技術の高さがうかがえ、特にセンターを活かす試合運びが目についた。時折見せたガード陣の3Pシュートが効果的で、試合のバランスとしてはとても良かったと思う。また、外国人枠をフルに活用し、各チームとも高さのあるバスケットを展開し、ディフェンス面でのポジション、リバウンド争い、シュートブロック、オフェンス面でのダンクシュートなど、観客を魅了するプレイが多く見られた。その他にもドリブルインされたときのカバーリングが早かったことと、インターセプト、リバウンドからの速攻など、コート全面を活用しての攻めが印象的だった。

大会2日間を通して、いずれの試合も高さを活かしたインサイドでの激しいプレイ、スピード感あふれるトランジションゲームが展開されており、徐々にNBAに近づきつつあるように思われた。このような素晴らしい試合を観戦する機会を与えてくださったJBLの役員、関係者に感謝申し上げるとともに、これからのJBLの発展を期待したいと思います。

(沖縄県立美里高校女子バスケットボール部顧問)



## JBL観戦記

都崎 修男

編集部門から観戦記を書けと依頼されましたが、小生が見た試合は東京近辺の試合の一部のみであり、とても「JBL観戦記」などという大それたものにはなりません。1ファンの感想ということで書かせていただきます。

今年のリーグは、オリンピック予選の影響、怪我人の多発などで有力チームが開幕時につまずき波乱が予想されましたが、何とか立て直して、プレイオフには予想された顔触れが大部分そろい、東芝が3度目の対いすず戦ファイナルを制し優勝しました。東芝の勝利は、卓抜したチームプレイとそれを可能にするベンチ、選手、応援一体となったチームワークによるものといえます。

今年はチームプレイに関してはいくつかの目立ったチームがありました。2部からあがったばかりでプレイオフ入りを果たした日立本社もその一つです。プレイオフでは東芝の厳しいディフェンスにもう少しのところで敗れ、1回戦突破はできませんでしたが、健闘を称えます。一方基本技についてはパス、ディフェンスなど甘さが目立ち、リーグ戦開始当初は厳しかったのが後半崩れて行ったチームもあります。またシュート、特にロングシュートについては、その日によりフォームも一定せず成功率に大きな波のある選手が見受けられ、普段の練習への取り組み姿勢が試合に現れているように思います。さらに根本になる身体能力については、今まで長身選手が外国人選手に比べ劣っていることは良くいわれてきましたが、見る限りにおいては長身選手以外でもトレーニング次第ではまだ高められるのではないかとの印象を受ける選手が多くいます。学生時代から時間をかけてこういった基本を大切にしておく習慣をつけないとレベルアップは難しいというのが率直な感じでした。

さて、今年度もリーグ戦終了後休部するチームがありますが、これは不景気による一時的な現象というより、株主利益の向上が強く経営陣に要請される時代となり、本業以外への支出が難しくなってきたことによるところが多いと思います。今後企業がスポーツに費用をかけるには株主へのアカウントビリティ（説明責任）の上からも、福利厚生なのか、広告宣伝なのか、地域への貢献なのか、プロとして利益を上げるためなのかなど目的を明確にすること、費用と効果のバランスがとれることが重要になってきていると思います。リーグ運営機構をはじめ関係機関で真剣にチーム数減少対策を練られていると聞きますが、いずれにしろ企業の資金抜きではやって行けぬと思いますので、時代の変化に即応し各企業の参加しやすい環境を整えられることを切に望みます。それにつけても大事なものは、観客、ファンの増加です。この問題は運営側の努力はもちろん審判、コーチ、個々の選手まで常にわきまえていなければなりません。そうすれば乱闘騒ぎによる試合放棄などという事態は起こり得ない筈です。

以上勝手なことを書き並べましたが、今後ともリーグの発展を念願してのこととしてご容赦下さい。（振興会副理事長）



## W J B L 観戦記

黒川 敏雄

昨年9月に開幕したW J B Lリーグ戦も、3月8日、シャンソン化粧品の10連覇で長いシーズンの幕を閉じました。試合の内容等はスポーツイベント誌ほかの専門誌に譲り、試合場で観戦しながら感じたことを若干披露したいと存じます。

まず第一に感じたのは、専ら東京、神奈川の近郊でのゲームのみですが、曜日に関係なく観客の少ないこと、特にW1に至っては、会社関係の応援もまばらで寂しい限りでした。観客動員については、当振興会でも話題になっていますし、バスケット界に限らず各種競技団体でも色々と対策を練っているようですが、絶対的な決め手を見出せないのが現状ではないでしょうか。

それにしてもこうした寂しい状態の時、更に足を引っ張るようなコーチにあきれました。ゲームの残り時間は1分を切り、得点差も20点以上開いた勝ちゲームで、タイムアウトを要求。数少ない会社関係の応援の人達さえも帰り仕度を始めたところで足止めされ、“おやっ”といった感じ。何の作戦が必要だったのかベンチの声は聞えませんでした。勝利の余韻を楽しんでもいるような笑顔。実は全く同様なケースが2回目だったのです。応援の人も“またか”と絶句。観客無視も甚だしく誠に残念なことでしたが、このヘッドコーチは日頃NHKのNBA放送の解説者でもあるとか、NBAでは考えられないことです。

私も5年程前から毎年1ヶ月程度アメリカに滞在して、NBAはじめ大リーグやフットボール等観戦してきましたが、どの競技も観客を非常に大切にし、いわゆるファンサービスが行き届いておりましたが、これらが観客動員の要因の一つでもあると思われます。日本リーグでも、選手、スタッフ、運営サイドの皆様で観客に対して少しでも楽しく観戦できる工夫をして欲しいと思います。

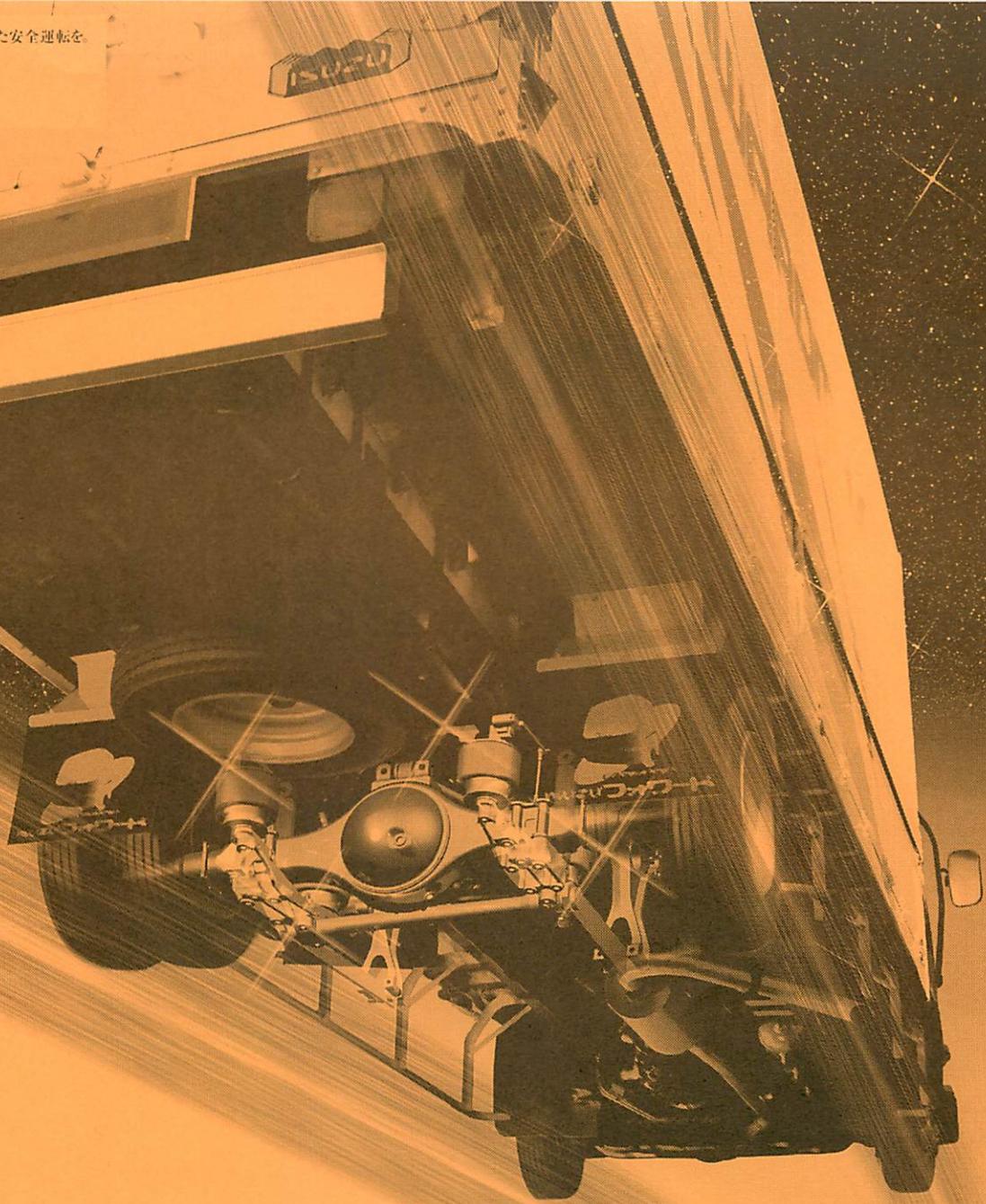
さて見る側に立って考える時、たまたまスポーツプロデューサー杉山茂氏の“観戦眼を鍛える責任”という一文を読み共感を覚えたので一部紹介させていただきます。外国を転戦してきたある日本選手から、試合場の雰囲気や観客がスポーツの見どころを心得ていて、競技するのが楽しくなったという発言があった。観客は常にスポーツに身近に接し、それぞれのスポーツ眼を身につけてエンジョイしている。選手たちの織りなすドラマの小さな仕草にも、ナマで見る楽しさがあり、それを見つけ出すのは見る側の責任ともいえるのではないのでしょうか。

W J B Lは久しく2強の時代が続いていますが、それ以外のゲームでも見方によっては“見る楽しみ”も探し出せます。是非会場でナマのゲームを観戦しバスケットの面白さを探求して下さい。(振興会監事)

シートベルトをしめ、スピードを控えた安全運転を。

**ISUZU**  
THE POWER OF IT ALL

これが経済効率の最先端。



誕生!



FORWARDMAX

GIGAMAX

GIGATRACKTOR



21世紀へ、最先端の経済効率をご提案します。

輸送に携わる皆さまから絶大な信頼をよせられる、いすゞ4バグエアサスペンション・シリーズ。荷崩れ・荷傷みの低減と抜群の経済性で、時代のニーズにお応えします。大型トラック・ギガマックス、ギガ・トラクタ、そして中型クラスにフォワードマックスをラインナップ。4バグエアサスペンションのいすゞが、最先端の経済効率で、皆さまのお仕事を力強くバックアップします。

# ISUZU 4バグエアサスペンション・シリーズ

●お問い合わせは最寄りの販売会社または、いすゞ自動車株式会社お客様相談室へ。お客様相談室（フリーダイヤル 0120-119-113 / タイヤルイン 03-5471-1188）●インターネットからISUZUの情報が取り出せます。BELLCOM <http://www.isuzu.co.jp/cv>

# JB2020で チャンピオンを目指せ!!



国際バスケットボール連盟  
主催国際大会 唯一の公式試合球  
(MTB7WW)



アジアバスケットボール連盟  
主催大会 唯一の公式試合球  
(MTB7WW)

**JBL**

バスケットボール日本リーグ機構  
主催大会 唯一の公式試合球  
(MTB7WW)



バスケットボール女子日本リーグ機構  
主催大会 唯一の公式試合球  
(MTB7WW)



## 本大会試合球

国際バスケットボール連盟公認球  
日本バスケットボール協会検定球

**MTB7WW** (品番)

●天然皮革 ●7号球 ●ワイドチャンネル

日本バスケットボール協会検定球

**MTB6WW** (品番)

●天然皮革 ●6号球 ●ワイドチャンネル

**molten®**

株式会社 **モルテン**

東京本社 〒130-0003東京都墨田区横川5丁目5-7  
大阪・名古屋・広島・福岡・四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG